

# 協定海外留学レポート

Joshi University of Art and Design

## 1. 基本情報

留学先大学	ラフバラ大学 (イギリス)
協定留学プログラム	1セメスター
留学期間	2023年10月～2023年2月
名前	M・Hさん
学部・学科・専攻	芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
留学した時の学年	2年次

## 2. 渡航について

利用航空会社	カタール航空
航空券手配方法	スカイキャナー
大学の最寄り空港名	ヒースロー空港
現地到着時刻	午後1時
キャンパスへの移動手段	大学の送迎バス
移動所要時間	約2時間
空港からキャンパスへの移動の際の注意点などありましたら、以下へ明記をお願いします。	
特にありません	
渡航前に済ませておくべき準備などありましたら、以下へ明記をお願いします。	
・SIMやeSIM、何を使うか、利用方法、手続きを確認しておくといと思います。 ・交換留学生が多く到着する5日ぐらいの間、ヒースロー空港からラフバラ大学までのシャトルバスが出ています。事前にラフバラのホームページからバスを予約することをお勧めします。	

## 3. 住居について

住居タイプ	大学寮
到着後すぐに居住入居できましたか？	はい
部屋のタイプ	1人部屋
住居を探した方法	大学からの案内
住居申し込み方法	大学からの案内に従って大学Webページより申し込み
1カ月の宿舎費 (現地通貨)	£564
注意点やアドバイスがあれば、以下へ明記をお願いします。	

## 4. 留学先オリエンテーションについて

オリエンテーション有無	ありました
日程	2023年10月初め
参加必須ですか？	はい

## 5. 授業について

履修登録はいつどのような形で行いましたか？	到着前にオンラインで
履修科目・単位数は？	2科目30単位
ボリューム的にどうでしたか？	ちょうどよかった

6. 履修科目詳細	
履修学科名	Graphic Communication & Illustration
①履修科目コース名	Content and Context: Society, Culture and Economy
授業時間	80分
授業回数(週)	週3回
単位数	20
授業内容・課題・試験について	<p>・Social Design            ソーシャル デザインについての実践的かつ理論的な入門を提供することを目的とし、ソーシャル デザイン(プロジェクト)に取り組み、グラフィック デザイン (エッセイ) を実践するための責任あるアプローチを問い、プロジェクトの研究課題を明らかにするために必要なスキル、方法、理解を身につける。</p> <p>・Narrative and Sequence            タスク 1:            作品の内容、形式、目的を自ら決定し、短い視覚的な物語をデザインして制作する。これには、短く書かれた「スクリプト」と、「ストーリーボード」を形成する8つのシーケンスされたグラフィック作品を制作し、そのうち3つの画像を提出用に高い完成度で作成する。            タスク 2:            タスク 1 の開発について情報を提供し、反映する 1500 ワードの重要なレポートを作成する。レポートは、モジュールの講義を通じて提供された概念に批判的に対応し、セミナーで行われた研究に対応させる。            タスク 3:            提出用のPDFプレゼンテーション資料を作成。ドキュメントには、調査、洞察、および脚本や大まかなストーリーボードを含む開発作業が含まれ、完成したスタジオ出力 (タスク 1) を文脈に沿って提示し、学術的な文章 (タスク 2) によってサポートされ、作品の目的と対象者を明確に説明する。</p>
②履修科目コース名	Visual Culture: Histories and Theories
授業時間	60~180分
授業回数(週)	週1~3回
単位数	10
授業内容・課題・試験について	<p>・Visualization            タスク 1:            5つのワークショップからの証拠を含む5~10ページの開発文書。視覚化のコンテキスト(概念/推論/正当化)を示す300語の説明を含む視覚的な調査、開発、およびプロトタイプングも含まれる。表紙と参考文献含む。            タスク 2:            最終結果 – 第1~3週で実施されたワークショップの1つに基づくアニメーション データ グラフィック。長さは最短 8 秒、最長 15 秒。MP4としてエクスポートする。</p> <p>・Collaboration            グループワークの授業。チームとして働く能力が評価される。            すべての GD モジュールが(大学で)学習のコミュニティを構築し、それが(現場で)実践のコミュニティを構築するため、5人からなる独自の作業グループを選択し、段階的に協力して、完全にデザインされた統一された書籍(チームメンバー全員に共通)の個別のコピーをデザインおよび作成する。            また、あなたがチームメンバーとしてタスクの完了に向けて生産的に働いたことを示す証拠を伴う            ストーリーを伝える必要あり。個人のデザイナーとしての自分の価値を明確にし、タスクは1つのAdobe Acrobat ファイルにまとめて提出。</p>
③履修科目コース名	
授業時間	
授業回数(週)	
単位数	
授業内容・課題・試験について	

## 7. 現地情報

(1)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか？ キャンパス内では大学のWi-Fiを問題なく使用できました。
(2)現地での支払い方法はどのようにしていましたか？
主にクレジットカード払い
(3)現地で現金での支払いが必要な時はありましたか？
特にありませんでした。
(4)現地での資金調達はどうに行いましたか？
クレジットカードを使用してATMで現金を調達しました。
(5)日本から現地通貨の現金を持って行かれましたか？ はいの場合、いくら位持っていかれましたか？
クレジットカードを使用してATMで現金を調達しました。
(6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。
日本の調味料、お米、スリッパ2個ぐらい
<b>8. 留学体験記</b>
(1)留学しようと決めた理由は？
環境の違う場所で、学業を学び、視野を広げたかったから。
(2)留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備はありましたか？
留学のためにした準備は、大学やイギリスについての下調べ、少しの英語勉強、生活用品を揃える、留学のためのお金をためる。
しておけばよかった準備は、語学学習。
(3)この協定大学を選んだ理由は？
世界で最も優れた大学であり、女子美術大学との交流が多く興味があったから。
(4)大学・学生の雰囲気はどんな感じでしたか？
さまざまな国籍の学生が在籍していました。毎日外に出るとスポーツをする学生がいてとても活気に満ち溢れていました。また関わった全ての学生が目標や、やりたいことがしっかりとあって、私にとってやる気になれる場所でした。またパーティーが大好きな大学でした。
(5)交友関係についてお聞かせください。
授業でグループで話し合う授業が多かったので、コミュニケーションを通じて仲良くなりました。また寮には、交換留学生しかいなかったのも、友達を作るにはいい場所でした。私のフラットメイトはヨーロッパの学生が多かったです。パーティーに行ったりご飯を作ったりしました。またそれぞれ自国について沢山紹介してくれました！！
(6)困ったこと、大変だったことがあればお聞かせください。

ラフバラ大学側のミスか何かで、私が退学になっていて、大学のアプリが使えず時間割や出席登録ができない、寮や図書館、教室に入れない、提出物の提出ができず、直すためにシステム関係の人に連絡したりサービスセンターに行かなければならなかったこと。土日はやっていなかったのにな直すまでに時間がかかったこと、提出物期間の延長などの手続きで、困りました。

(7) 現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。

語学学習は、毎日、フラットメイトとは喋るようにし、朝や、スーパーまでの行き帰りは英会話のラジオを聞くようにしました。

(8) 現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。

大学の勉強は、食堂や図書館でよくやっていました。

(9) 海外生活の中で気がついたことなどあればお聞かせください。

学生パスポートが重要であった。  
イギリスでは現金は使わなかった！そのため、カードが二個あるといい。(不具合で使えなくなった時に困るため)日本に興味がある人が多いため、積極的に日本をアピールするといい。グッズなど持っているのをきっかけに話しかけてくれる子も多い。  
appstoreの国を現地の国に変更すると現地のスーパーのアプリをいれることができ、安く買える。  
電車は高いので、高速バスのようなバスで予約して使うと安く移動できる。  
最後に気づいたが、正規の日本人の学生は多い。  
実家暮らしの学生はすごく少ない。友達とシェアハウスしてる学生が多かった！  
趣味としてスポーツをしている人がすごく多かった！  
図書館はいつも満員！  
課題やテスト後は学内のパーティーに行く人が多い！寮の友達とよく行きました！  
イギリス英語はとても興味深い！聞き取りは難しいが、とても美しい。  
イギリス人は紳士です。

# 協定海外留学レポート

Joshi University of Art and Design

## 1. 基本情報

留学先大学	ラフバラ大学 (イギリス)
協定留学プログラム	1 Semester
留学期間	2023年10月~2024年2月
名前	H・Nさん
学部・学科・専攻	芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
留学した時の学年	2年次

## 2. 渡航について

利用航空会社	カタール航空
航空券手配方法	トリップドットコム
大学の最寄り空港名	ヒースロー空港
現地到着時刻	午前7時
キャンパスへの移動手段	バス
移動所要時間	約3時間
空港からキャンパスへの移動の際の注意点などありましたら、以下へ明記をお願いします。	
新学期(9月)の場合、ヒースロー空港から大学までの直通バスがある。無料。	
渡航前に済ませておくべき準備などありましたら、以下へ明記をお願いします。	

## 3. 住居について

住居タイプ	大学寮
到着後すぐに居住入居できましたか?	はい
部屋のタイプ	1人部屋
住居を探した方法	大学からの案内
住居申し込み方法	大学からの案内に従って大学 Web ページより申し込み
1カ月の宿舎費 (現地通貨)	£800
注意点やアドバイスがあれば、以下へ明記をお願いします。	

## 4. 留学先オリエンテーションについて

オリエンテーション有無	ありました
日程	2023年10月2日
参加必須ですか?	はい

## 5. 授業について

履修登録はいつどのような形で行いましたか?	到着前にオンラインで
履修科目・単位数は?	4科目30単位
ボリューム的にどうでしたか?	ちょうどよかった

6. 履修科目詳細	
履修学科名	Graphic Communication & Illustration
① 履修科目コース名	Social design
授業時間	80~120分
授業回数(週)	週3回
単位数	10
授業内容・課題・試験について	企業や団体のリサーチから始まり、マーケティングに基づいた多方面のデザイン制作。1500ワードのエッセイあり。
② 履修科目コース名	Narrative and Sequence
授業時間	80~120分
授業回数(週)	週3回
単位数	10
授業内容・課題・試験について	言葉とビジュアルの関係性について深く考える授業。作品媒体は自由だが、物語を自作し、それを効果的に表現をする作品を作る。1500ワードのエッセイあり。
③ 履修科目コース名	Collaboration
授業時間	80~180分
授業回数(週)	週3回
単位数	5
授業内容・課題・試験について	グループ制作。その中で役割を決めて“会社で働く”事を意識して活動する授業。ターゲットやコンセプトを詳しく決めて、それに忠実になるように、童話の不思議の国のアリスを新しく作り直した。

7. 現地情報
(1)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか？ 【回答例】 キャンパス内では大学の Wi-Fi を問題なく使用できました。キャンパス外では地方に行かない限り使用できました。
大学 Wi-Fi が問題なく使用できる。EE のシムも問題なく使用できた。
(2)現地での支払い方法はどのようにしていましたか？ 【回答例】 主にクレジットカード払い
主にクレジットカード払い
(3)現地で現金での支払いが必要な時はありましたか？ 【回答例】 はい、友達との食事代支払いの時に使用しました。
友達と割り勘をする場面で必要になった。
(4)現地での資金調達はどのように行いましたか？ 【回答例】 ①クレジットカードを使用して ATM で現金を調達しました。 ②日本から現金を持って行ったので必要ありませんでした。
主にクレジットカード
(5)日本から現地通貨の現金を持って行かれましたか？ はいの場合、いくら位持っていかれましたか？ 【回答例】 はい、£1,000位
5万
(6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。 【回答例】 日本の調味料
日本の調味料、アジアのコスメ

<b>8. 留学体験記</b>
(1)留学しようと決めた理由は？ 幼い頃から海外というものに興味があったから。就活がはじまるタイミングに影響しないのも魅力的だった。
(2)留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備はありましたか？ 英語の勉強と自分の意見をまとめられる曲をつけること。
(3)この協定大学を選んだ理由は？ イギリスの中でグラフィック部門1位をとっていたから。 イギリス英語が好きだから。
(4)大学・学生の雰囲気はどんな感じでしたか？ みんな楽しむ時は楽しみ、真剣な時は真剣に。という感じでメリハリのある学校だった。
(5)交友関係についてお聞かせください。 同じ学科の子とは仲良くなっても次の授業で離れてしまって、疎遠になりやすかった。同じ寮の子の方が深く話せた。 また、たまたま知り合った関西大学からの交換留学生の子が日本にルーツがある人達のコミュニティーを作ってくれて、イギリス育ちの日本とのハーフの子らとも仲良くなった。
(6)困ったこと、大変だったことがあればお聞かせください。 英語の能力が足りていない上に、女子美ヴィジュアルデザイン学科で学ぶことは大幅に異なる授業内容だったため、最初はかなり困惑した。 女子美では自分の制作スタイルを追求するような手を動かす作業だったのに対し、ラフバラは、企業やペルソナを意識した、論理的で会社会的な制作で、ほぼマックブックを使用して制作していた。 分からないことは分からないままにしない事が大事。
(7)現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。 午前に講義を受けて、午後に課題にまつわる授業を受けていた。午前の講義が、その日の午後の課題に直接つながるものではないことが多いので注意。 しかし、午前のみで終わったり、授業がない日があったりと学校授業にはゆとりがあった。
(8)現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。 論理的に制作することが求められ、単位の大きな授業課題は、デザイン課題の他に、1500ワードの論文を書いていた。リサーチや論理に基づいたマーケティングが必要だった。 そこから制作に入るため、制作に時間をかけられないこともしばしばあった。
(9)海外生活の中で気がついたことなどあればお聞かせください。 留学したことで、英語能力だけでなく、自分について深く知る良い機会になりました。

# 協定海外留学レポート

Joshi University of Art and Design

## 1. 基本情報

留学先大学	ラフバラ大学 (イギリス)
協定留学プログラム	短期(2ヶ月)
留学期間	2023年2月~2023年3月
名前	K・Oさん
学部・学科・専攻	短期大学部・造形学科・美術コース
留学した時の学年	1年次

## 2. 渡航について

利用航空会社	エミレーツ航空
航空券手配方法	エミレーツ航空ウェブサイト
大学の最寄り空港名	ガトウィック空港
現地到着時刻	午前 11 時
キャンパスへの移動手段	電車
移動所要時間	約2時間
空港からキャンパスへの移動の際の注意点などありましたら、以下へ明記をお願いします。	
到着当日は、ストライキが行われていたため予定していたルートを変更しました。空港から大学のルートは1つしか計画していなかったため、あらかじめいくつかルートを確認しておくといいと思いました。ヒースロー空港からは、あらかじめ予約をしていれば大学がバスを出してくれるそうなので、ヒースロー発着にすると安心だと思います。	
渡航前に済ませておくべき準備などありましたら、以下へ明記をお願いします。	

## 3. 住居について

住居タイプ	大学寮
到着後すぐに居住入居できましたか？	はい
部屋のタイプ	1人部屋
住居を探した方法	大学からの案内
住居申し込み方法	大学からの案内に従って大学 Web ページより申し込み
1カ月の宿舎費 (現地通貨)	約 £600
注意点やアドバイスがあれば、以下へ明記をお願いします。	
短期滞在の学生は University Lodge 以外の選択肢はないようです。University Lodge にはファイナリヤーの学生もいましたが、研究などで短期で訪れている人が多く、他の寮と比べ学生でワイワイというのはありませんでした。平日は毎日バス・トイレの共用部に清掃がはいるのでとてもきれいでした。	

## 4. 留学先オリエンテーションについて

オリエンテーション有無	有
日程	2023年2月6日(授業初日)
参加必須ですか？	はい

## 5. 授業について

履修登録はいつどのような形で行いましたか？	出願時に履修希望科目提出
履修科目・単位数は？	2科目 25単位
ボリューム的にどうでしたか？	ちょうどよかった

## 6. 履修科目詳細

履修学科名	Graphic Communication & Illustration
-------	--------------------------------------

① 履修科目コース名	Locating Practice: Interpreting Environment and Audiences
授業時間	60分(講義)120分(スタジオセッション・ワークショップ)
授業回数(週)	週3回
単位数	20
授業内容・課題・試験について	3つの課題があり、4週ごとに別の課題に取り組みました。(学期末にまとめて課題提出) ① Sequential Photo-Narrative 自分が気になった SNS の投稿から、ストーリーを作り、写真を用いて一冊の本を作る。成果物を PDF で提出。 ② Big Book 5~6人のグループで一冊の絵本を作るプロジェクト。グループ内でアートディレクター・イラストレーター・レイアウト担当・タイポグラフィ担当と得意によって分担して制作する。 ③ The Alternative Museum Project (帰国のため不参加) リストから美術館・博物館を選び、各自設定したオーディエンスが訪れたいようなデザインを考える。
④ 履修科目コース名	Oral and Aural English Language Skills for Non-Native Speakers
授業時間	60分
授業回数(週)	週2回
単位数	5
授業内容・課題・試験について	留学生が英語でディスカッションをする授業です。4人しか取っていない授業でしたが、全員ビジネス以上のレベルでした。先生から提示された時事ニュースを見たり、1時間ほどのドキュメンタリーを見てディクテーションをしてくる(英語に慣れていても大変でした)、好きな曲や映画について説明するなど様々な課題がありました。先生が留学生と留学生の母語を学んでいる学生をマッチングして、ランゲージエクスチェンジができました。授業外で週3~5時間程度、イギリス人学生と日本語と英語で会話をしていました。最終課題は、ニュースの内容理解度を測るリスニングテストでした。
③履修科目コース名	
授業時間	
授業回数(週)	
単位数	
授業内容・課題・試験について	

## 7. 現地情報

(1)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか？

【回答例】 キャンパス内では大学の Wi-Fi を問題なく使用できました。キャンパス外では地方に行かない限り使用できました。

キャンパス内では大学の Wi-Fi を問題なく使用できました。現地の SIM カードを月毎に購入したので、外でも携帯電話の使用ができました。

(2)現地での支払い方法はどのようにしていましたか？

【回答例】 主にクレジットカード払い

クレジットカード払い(Apple Pay)

(3)現地で現金での支払いが必要な時はありましたか？

【回答例】 はい、友達との食事代支払いの時に使用しました。

はい。個人経営の中華料理屋や韓国料理屋などで現金のみ支払い可能のお店がありました。

<p>(4)現地での資金調達はどうに行いましたか？  <b>【回答例】</b>①クレジットカードを使用して ATM で現金を調達しました。                  ⑤ 日本から現金を持って行ったので必要ありませんでした。</p>
<p>クレジットカードのみ使用していました。</p>
<p>(5)日本から現地通貨の現金を持って行かれましたか？ はいの場合、いくら位持っていかれましたか？  <b>【回答例】</b>はい、£1,000位</p>
<p>はい、£240 位</p>
<p>(6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。  <b>【回答例】</b>日本の調味料</p>
<p>醤油・めんつゆ、梅干系のお菓子                  日本の頭痛薬や風邪薬</p>
<p><b>8. 留学体験記</b></p>
<p>(1)留学しようと決めた理由は？</p>
<p>女子美に来る前は、国際関係と英語を勉強しており、将来はアートのスキルと英語・留学のスキルを活かして活躍したいと考えていたため。海外での生活や、いつもと違う環境で受ける授業は、自分のアートに良い影響があると考えたため。</p>
<p>(2)留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備はありましたか？</p>
<p>ラフバラ大学に通う学生からの情報収集が大事だと思いました。大学では常にイベントが行われており、情報量が要でした。留学生の友達が寮のシェアメイトから聞いた情報に助けられていました。女子美にも常にラフバラ大学からの留学生が来ているので、いろいろ話を聞いておくのと良いと思いました。                  女子美では美術を専攻していますが、ラフバラ大学ではグラフィック系の授業を取ったので Adobe のソフトのおさらいをしておけばよかったと思いました。Adobe のソフトを使用する授業があったのですが、コマンド名が全部英語だったため、理解に倍の時間がかかってしまいました。                  ビジネスレベルの英語で留学したので、授業の理解はほぼできました。トラブルにも英語対応できたので、ある程度上級の英語力は必要だと思います。英語を学びたいという理由では協定留学は向いてないと思います。</p>
<p>(3)この協定大学を選んだ理由は？</p>
<p>イラストレーターや絵本作家として活躍している先生が多かったため。週末や帰国前にロンドンの美術館をたくさん訪れたいと考えていたので、ロンドンから電車で2時間のラフバラはいい場所でした。また、大学の規模が大きく、普段女子美では会えない美術系以外の学生との交流が期待できると思ったため。</p>
<p>(4)大学・学生の雰囲気はどんな感じでしたか？</p>
<p>大きい大学で1学期の留学生が100人を超えていました。セメスター2の美術系の留学生は、女子美生を入れて7人で、学部の留学担当チームから手厚いサポートを受けることができました。                  ダイバーシティを謳っている大学であったため、様々な国・地域からきた学生・スタッフがいました。しかし実際は、イギリス人はイギリス人、アジア系学生はアジア系、エラスムス生はエラスムス生で行動しているイメージでした。特にイギリスの2学期からの参加だったので、はじめのころは正規学生との交流が少なかったです。                  膨大なキャンパスだったので、最初の2週間はずっと道に迷いました。学校の敷地内に限り、バスの乗車が無料だったので、10分に1度しか走っていなかったので利用しませんでした。学生のイベントがほぼ毎日行われていて、充実した学生生活を送ることができました。</p>
<p>(5)交友関係についてお聞かせください。</p>
<p>初めは、エラスムス留学生がメインの10人~程度のグループで仲良くしていました。週末に近くのバーミンガムやレスターに旅行に行ったり、誰かの寮に集まってそれぞれの国の料理を振る舞ったりしていました。                  ソサエティという日本で言うサークルが無数にあり、イベントはほぼ無料で参加できました。私は、スケッチのソサエティに参加して、正規学生と交流しました。スケッチのソサエティで出会った友人とは帰国後も連絡を取り合う仲です。アートという同じ興味の軸があると、話が盛り上がり、距離がぐっと近くなる印象でした。                  日本語を学んでいるイギリス人学生2人とランゲージエクスチェンジをしました。2人とも今後日本に来る予定なので連絡を取っています。イギリス人の正規学生とイギリスの文化や政治・教育について話す機会はとても有意義でした。</p>

<p><b>(6)困ったこと、大変だったことがあればお聞かせください。</b></p> <p>初日のガイダンスでも「留学生は2週目あたり全員インフルエンザにかかる」と冗談らしく言われましたが、その通りでした。慣れない環境での疲れと、イギリスの寒さ、長く続いたマスク生活で免疫力が落ちていたので、留学中の4分の1は体調が悪かったです。留学生は、ほぼ同じ時期に体調を崩していました。</p> <p>グループワークの授業では、いい作品を目指そうとするあまりややきつい言い方をする学生もおり慣れませんでしたが。日本でグループワークするときよりさらに上の積極性がないと、やる気がないと思われれます。どんな些細なことでも自分の意見を示すことが大事だと学びました。</p>
<p><b>(7)現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。</b></p> <p>授業の構成は、課題制作にむけて1週間で講義・スタジオで先生にアドバイスをもらう時間・Adobe ソフトのワークショップをする流れでした。講義とワークショップはオンラインでも公開され、理解するまで何回も聞きました。スタジオセッションでは、毎回の授業でここまでやってきてというラインが明確に提示され、進捗状況に沿って先生からご指導いただきました。どの先生もとてもフランクで「こういうところに困っている」と相談するの的確なアドバイスをくれました。英語に不安がある時は、次のセッションで事前にこう言うことを聞こうと考えて参加するとスムーズだと思います。</p> <p>授業中に出てきた単語で知らないものがあれば、授業後すぐに調べ、その単語を英語で説明できるように自主学習していました。授業で課題の説明が行われた際は、何がいつまでに必要か分かりやすくノートにまとめました。</p>
<p><b>(8)現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。</b></p>
<p><b>(9)海外生活の中で気がついたことなどあればお聞かせください。</b></p> <p>イギリスは学生もメンタルヘルスを大事にしている印象でした。それぞれ自分と向き合う時間や、自分のメンタルについて誰かに相談する時間を大事にしている、ウェルビーイング系のイベントも多くありました。今まで自分は幸せか、自分を愛せているかという軸で物事を考えることはありませんでした。心の健康について考えるよいきっかけになりました。</p> <p>イギリスの学生は、社会や思想を反映させたアートを作る印象でした。世の中のことを知り、アートの力で良い方向に変えて行こうという学生の姿勢から、多くのことを学びました。</p> <p>イギリスはアプリ社会でした。大学関係でも少なくとも4つはアプリをダウンロードしました。学内ではクレジットカードの使用のみで、£1の支払いでもクレジットカードを使用していました。</p>

1. 基本情報	
留学先大学	ラフバラ大学 (イギリス)
協定留学プログラム	1セメスター
留学期間	2024年9月~2025年1月
名前	M・Nさん
学部・学科・専攻	芸術学部 アート・デザイン表現学科 メディア表現領域
留学した時の学年	三年次

2. 渡航前手続きについて(留学ビザ)	
ビザの種類	
申請先	
ビザ取得所要日数 (申請してから何日/週要したか)	
ビザ取得費用	
必要書類	
具体的な申し込み手順を、以下へ明記お願いします。	
ビザ取得の際に、留学先国大使館で面接があった方は、どのような質問を受けましたか。	
ビザ取得に関して困った点・注意点について、以下へ明記お願いします。	

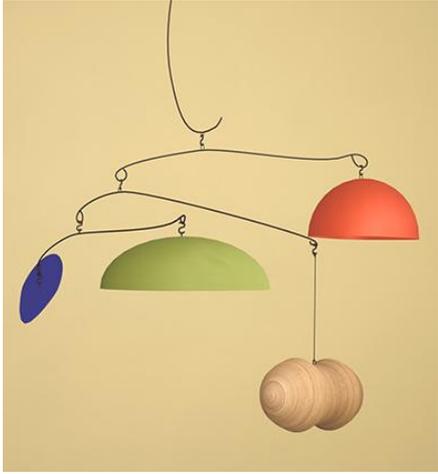
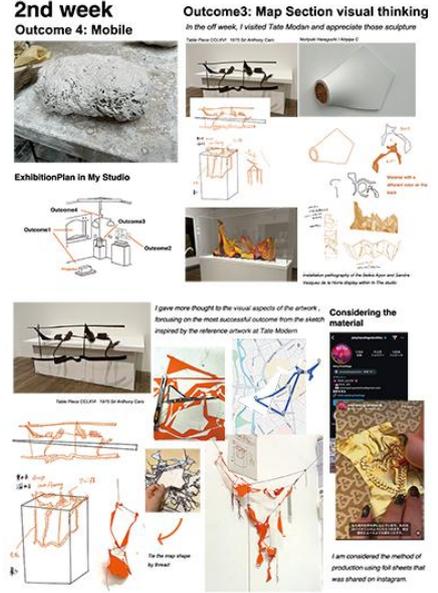
2. 渡航について	
利用航空会社	全日空
航空券手配方法	ANA
大学の最寄り空港名	ヒースロー空港
現地到着時刻	午後3時
キャンパスへの移動手段	電車
移動所要時間	約2時間
空港からキャンパスへの移動の際の注意点などありましたら、以下へ明記お願いします。	
渡航前に済ませておくべき準備などありましたら、以下へ明記お願いします。	
荷物との移動が大変だったので、大学が出している空港から寮までの送迎バスや配送サービスも調べておくべきであったと思いました。	
3. 住居について	
住居タイプ	大学寮
到着後すぐに居住入居できましたか？	はい
部屋のタイプ	1人部屋 (共用キッチン)
住居を探した方法	大学からの案内
住居申し込み方法	大学からの案内に従って大学 Web ページより申し込み

1カ月の宿舍費（現地通貨）	£ 540
注意点やアドバイスがあれば、以下へ明記をお願いします。	
構内にある寮には学生数が例年に比べ多く、留学生は隣街の大学が協定している学生寮を使用することになりました。渡航直前まで寮が決まっていなかったため、その可能性も見越して事前に調べておく余裕を持って対応できると思いました。 急な変更はありましたが、ラフバラ大学の留学チューターの方に相談すれば、交通費の負担などすぐに対応して頂けたので、何か困ったことがあればメールで相談してみるとおおよそのことは解決できると思えます。	

4. 留学先オリエンテーションについて	
オリエンテーション有無	ありました
日程	2024年9月26日(クリエイティブアート)9月27日(ファインアート)
参加必須ですか？	はい

5. 授業について	
履修登録はいつどのような形で行いましたか？	到着前にオンラインで
履修科目・単位数は？	2科目各10単位
ボリューム的にどうでしたか？	ちょうどよかった

6. 履修科目詳細 ※履修した授業すべて記載してください。	
履修学科名	Fine Art
①履修科目コース名	Identifying Individual Practice
授業時間	月曜日レクチャー120分 実技180分 金曜日ワークショップ180分
授業回数(週)	週2-3回
単位数	10
授業内容・課題・試験について	<p>[授業内容]          この授業は自分自身の作品制作の方向性を探していく授業です。          毎週月曜日の午前中はレクチャーで、今週行われる大まかな授業内容やアナウンス、質問の共有がされる時間と、個人の制作のヒントになるような制作プロセスの組み方や、参考作品の紹介などがなされる時間です。午後は自分のスタジオスペースでの制作時間が与えられていました。その時間のどこかで自分の担当チューターに制作状況を説明し、質問やアドバイスを受ける時間がありました。          毎週金曜日は、自身が事前に選んだワークショップが行われます。ペインティングやスカルプチャーなど五つのワークショップから選び、授業を受けます。          学期の初めの方にはヨークシャー・スカルプチャー公園への研修や構内にある彫刻作品の見学、二つの森を散策する授業がありました。          提出期限の前週には少人数のグループに別れてクラスメイトの作品説明を聞いたり質問したりすることができる講評会がありました。</p> <p>[課題]          CW1: Practical Presentation          作品の素材になるようなドローイングやスケッチ、リサーチを行い、その中から特に成功した成果物を3点とそれらのプロセスを与えられた自身のスタジオスペースに掲示して提出します。提出方法は実際の展示と写真でのデジタル提出の二点です。          CW2: Art Commission Proposal          作品のコンセプトや具体的な展示方法を文章でまとめたページ、作品のイメージ写真（実際に作った作品でも合成した写真でも可）を各1ページ、作品のコンセプトのリサーチや素材の検討、ドローイングなどのプロセスをまとめた3ページ（1ページごとに50ワードの補足文章が許されています）、最後に参考作品や文献をまとめた1ページの合計6ページの提案書を提出します。          どちらの課題も完成された作品の提出というより、プロセスやリサーチを重視している印象を受けました。</p>

<p>成果物の写真 2点以上を張り付けてください。</p>		
<p>②履修科目コース名 Developing Individual Practice</p>		
<p>授業時間 月曜日レクチャー120分 実技 180分 金曜日ワークショップ 180分</p>		
<p>授業回数(週) 週2回</p>		
<p>単位数 10</p>		
<p>授業内容・課題・試験 について</p>	<p>[授業内容] Identify individual practice で明らかになった自身の方向性や作品のためのドローイング、スケッチなどの成果物を使って実際に作品を完成させるという授業です。授業形態は Identify individual practice と変わりません。</p> <p>[課題] CW1:制作した作品4点を自身のスタジオスペースに展示します。提出形態は実際の展示と写真のデジタル提出の二点です。 CW2:授業が始まってからの六週間の記録をまとめます。2ページにその週に行ったドローイング、スケッチ、マインドマップなどのプロセスをまとめます。(1ページ50ワードの補足説明が許されています)</p>	
<p>成果物の写真 2点以上を張り付けてください。</p>		
<p>③履修科目コース名</p>		

授業時間	
授業回数(週)	
単位数	
授業内容・課題・試験 について	
成果物の写真 2点以上を張り付け てください。	

## 7. 現地情報

(1)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか？

キャンパス内や寮では問題なく使用できました。ただ、地下鉄やバスの中ではインターネット接続が悪くたまに圏外になることもありました。

(2)現地で携帯電話、スマートフォンの利用手続きはどのようにしましたか？

SIMカードは入寮時に giffgaff の SIM カードを貰ったので使用しました。£10 で 60G 使用できるプランだったのでギガを全く気にせず使用でき、電話番号も作ることができたので色々な登録時に楽でした。日本の電話番号が使えないので特に、クレジットカードでの購入時パスワードが SMS で送られてくる場合には不便でした。

(3)現地での支払い方法はどのようにしていましたか？

クレジットカードのみです、またカードを出すことなくほとんど携帯に登録するような電子マネーで支払っていました。

(4)現地で現金での支払いが必要な時はありましたか？

いいえ、支払うことはなかったです。

(5)現地での資金調達はどのように行いましたか？

日本の空港で換金して持って行ったので必要ありませんでした。

(6)日本から現地通貨の現金を持って行かれましたか？ はいの場合、いくら位持っていかれましたか？

はい、£150 ぐらい

(7)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

日本の調味料(本だしとかめんつゆ、コンソメなど)  
 日本のお菓子(お煎餅とか羊羹など)

## 8. 留学体験記

(1)留学しようと決めた理由は？

<p>留学を決めた理由は三つあります。一つ目は、ヨーロッパの美術教育に興味がありました。高校時代からイギリスに留学した友達や海外に大学進学した友達の話を聞くと、イギリスの美術、芸術の教育は日本よりも重要視されている印象を受けました。鑑賞や制作など色々なアプローチで小さい頃から身近にあるものだと知り自分も学生としてそれらを体感できるきっかけになると思いました。</p> <p>二つ目は、多様性の中に身を置き異文化を知り制作活動をする事で新たな刺激を得ることができると考えました。制作活動は身の回りの環境や経験に大きな影響を受けると思いますが、ラフバラー大学のファインアート学科は絵画だけでなく自分が女子美で二年間学んだメディアアートをファインアートの視点から学べるということを知り、メディアに捉われない環境での作品制作に興味がありました。</p> <p>三つ目は、自分の作品を説明するための英語力を磨くためです。日本で英語を学ぶことはできますが、その場で自分の作品を説明するスキルを向上するのは限定的だと思いました。さらに、英語には大きな発信力があります、沢山のの人に自分の作品を発信し、知ってもらうために英語力は欠かせないものであると思いました。</p>
<p><b>(2)留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備はありましたか？</b></p> <p>英会話 文法や単語を学ぶことも大事だと思いましたが、実際に会話することにもう少し慣れる準備をしておきたかったです。</p>
<p><b>(3)この協定大学を選んだ理由は？</b></p> <p>ラフバラー大学のクリエイティブアートではファインアートの領域でメディアアートを学ことができ、マテリアルや方法にとらわれない制作ができることを知りました。普段からメディアアートのならず、ドローイングやオブジェなどコンセプトによって制作方法を変えている私にとって良い環境であると思い、ラフバラー大学を選びました。</p>
<p><b>(4)大学・学生の雰囲気はどんな感じでしたか？</b></p> <p>学年全体はとても明るく、授業形式や先生がかなり自由なためクラスメイト同士で知っていることは共有し、相談したりしているような雰囲気でした。留学生のサポートをする部署は困ったことがあった時質問すれば必ず解決できるような提案や、回答をくれるのでとても質問しやすかったですし、ファインアートの部署とも連携が取れていて、とてもレスポンスが早かったです。とても頼りになる印象を受けました。</p>
<p><b>(5)交友関係についてお聞かせください。</b></p> <p>寮のルームメイト、留学生の交流イベントや美術館への研修、自分のスタジオスペースの近くのクラスメイト、ワークショップなどで他の国からの留学生やネイティブの学生とも知り合いました。日本からの留学生もクラスに一人いました。同じ寮に住む友達とは美術館に行ったりランチを食べに行きました。美術館への研修では同じグループの大学院生の友達ができ家でご飯をご馳走してくれました。違う文化の食事を楽しむことができとても楽しかったです。</p>
<p><b>(6)困ったこと、大変だったことがあればお聞かせください。</b></p> <p>寮と大学が1時間30分程かかるので特に、提出期限直前は毎日行くのが大変でした。</p> <p>また、制作のための素材を調達するのが大変でした。基本はワークショップの先生と話すや貰うことができるのですが、用意されてなかったり特殊なものだと自分でオンラインで購入したりホームセンターに行ったりしました。基本的にそういった情報量が留学生は少ないのでどこに行けば何がもらえるのかわからず、何度も先生に質問したり、友達に聞いたりしましたがそれでも追いつかないことはありました。</p> <p>授業最終日まで知らなかったことが沢山ありました。</p>
<p><b>(7)現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。</b></p> <p>月曜に行われるチューターとのディスカッションで自分の作品に必要な要素であったり参考になりそうな作品、興味がありそうな学問などを教えて貰い自分の制作を進めていくという形なので、それぞれが個人で制作しているという印象が強いです。学生たちの個人的で様々な興味に触れることができとても面白かったです。</p>
<p><b>(8)海外生活の中で気がついたことなどあればお聞かせください。</b></p> <p>留学と聞くと初めは、SNSで見えるような生活をしなければならないのかとか毎日のように友達と遊ぼうような生活だと思っていましたが、始めてみると、自分のペースで変わらない生活が出来たことに気づきました。海外での生活が想像していたよりも気楽で日本にいる時と変わらない精神状態で制作することができ、より身近になったような気がします。</p>
<p><b>(9)海外生活の中で印象深いこと(風景、人、モノなど)を写真で紹介してください。4点以上</b></p>





### 1. 基本情報

留学先大学	ラフバラ大学 (イギリス)
協定留学プログラム	1セメスター
留学期間	2024年9月～2025年1月
名前	K・Kさん
学部・学科・専攻	芸術学部 共創デザイン学科
留学した時の学年	2年次

### 2. 渡航前手続きについて(留学ビザ)

ビザの種類	Students Visa
申請先	ラフバラ大学
ビザ取得所要日数 (申請してから何日/週要したか)	約2ヶ月
ビザ取得費用	£0
必要書類	パスポートのコピー、ポートフォリオ、成績証明書、ラーニングアグリーメント
具体的な申し込み手順を、以下へ明記お願いします。	
留学申請フォームへの入力と、必要書類をメールにて送信しました。	
ビザ取得の際に、留学先国大使館で面接があった方は、どのような質問を受けましたか。	
面接はありませんでした。	
ビザ取得に関して困った点・注意点について、以下へ明記お願いします。	
送信した書類がラフバラ大学の方で開けないという連絡があり、送り直すというトラブルがありました。また、一度送ったパスポート等の情報はその後の本人確認に欠かせません。期限をあらかじめチェックして、必要があれば更新した上で、期限に余裕を持って提出することをお勧めします。	

### 2. 渡航について

利用航空会社	日本航空
航空券手配方法	eチケット
大学の最寄り空港名	ヒースロー空港
現地到着時刻	午後4時20分
キャンパスへの移手段	電車
移動所要時間	約2時間半
空港からキャンパスへの移動の際の注意点などありましたら、以下へ明記お願いします。	
バスと電車、どちらでも行けます。どちらも遅延や変更が多いので、アプリ等で最新の情報を入手できる状態にしておく不安が少ないと思います。長距離のものは事前予約をお勧めします。	
渡航前に済ませておくべき準備などありましたら、以下へ明記お願いします。	
ヨーロッパ(イギリス)の交通アプリをダウンロードしておく、チケット購入やプラットフォームの確認に便利です。また、イギリス入国の際にETAが必須になり、事前の取得が必要です。入国審査で質疑応答が必要になった場合や端末が使えない場合に備えて、Students Visaやパスポートのコピーを紙媒体で印刷しておくのもお勧めです。	

### 3. 住居について

住居タイプ	大学寮
到着後すぐに居住入居できましたか？	はい
部屋のタイプ	1人部屋(キッチン共有)
住居を探した方法	大学からの案内
住居申し込み方法	大学からの案内に従ってWebページより申し込み
1カ月の宿舍費(現地通貨)	¥540
注意点やアドバイスがあれば、以下へ明記をお願いします。	

### 4. 留学先オリエンテーションについて

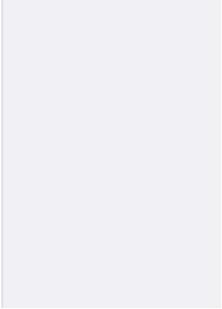
オリエンテーション有無	ありました
日程	2024年9月26日
参加必須ですか？	はい

### 5. 授業について

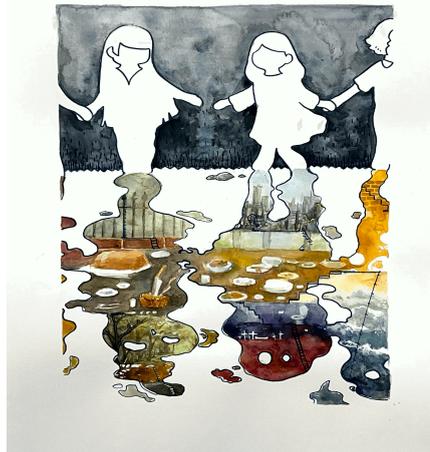
履修登録はいつどのような形で行いましたか？	到着前にオンラインで
履修科目・単位数は？	4科目30単位
ボリューム的にどうでしたか？	ちょうどよかった

### 6. 履修科目詳細 ※履修した授業すべて記載してください。

履修学科名	Fine Arts	
①履修科目コース名	Identifying Individual Practice	
授業時間	60分(講義) + 180分(制作)	
授業回数(週)	週1回	
単位数	10	
授業内容・課題・試験について	週1回の講義にて説明を受け、他の時間はアドバイスを受けながらスタジオで制作を行います。期日までに4つ以上の成果物の作成が求められました。以下の2つはオンラインで、現物はスタジオに設置という形で提出しました。 提出物 ・最も成功した作品とそのコンセプト、リサーチ過程 ・3つの作品とスタジオの写真	
成果物の写真 2点以上を張り付けてください。		
②履修科目コース名	Reading Art Theory	
授業時間	60分(講義) + 60分(セミナー)	
授業回数(週)	週1回	
単位数	5	

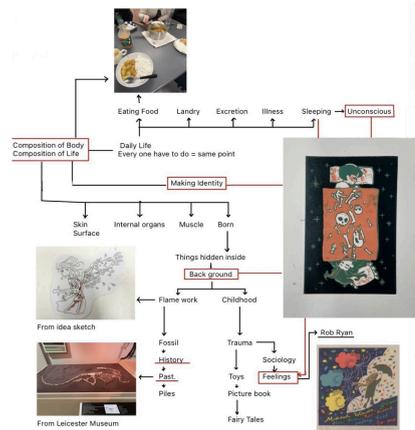
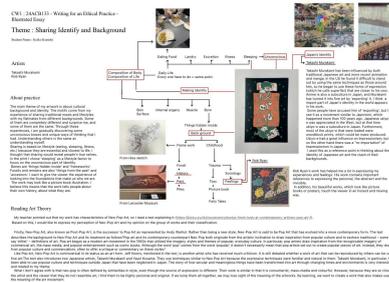
<p>授業内容・課題・試験について</p>	<p>アートに関する講義の後に、セミナーで生徒で議論を行うという授業形態でした。 提出物 ・毎週の講義の要約+任意のアーティスト、アートについての文章</p>	
<p>成果物の写真 2点以上を張り付けてください。</p>		
<p>③履修科目コース名</p>	<p>Developing Individual Practice</p>	
<p>授業時間</p>	<p>60分(講義) + 180分(制作)</p>	
<p>授業回数(週)</p>	<p>週1回</p>	
<p>単位数</p>	<p>10</p>	
<p>授業内容・課題・試験について</p>	<p>Identifying Individual Practiceと基本的な授業形態は同じでした。 提出物は、より美術作品としての完成度が重視されていました。 提出物 ・6週間の制作過程、リサーチなどのまとめ ・4つの作品とスタジオの写真</p>	

成果物の写真  
 2点以上を張り付けて  
 ください。



④履修科目コース名	Writing for an Ethical Practice
授業時間	60分(講義) + 60分(セミナー)
授業回数(週)	週1回
単位数	5
授業内容・課題・試験 について	Reading Art Theoryと基本的な授業形態は同じでした。講義内容を元にリサーチを行い、自分の作品に関連したマインドマップを作成しました。 提出物 ・マインドマップ

成果物の写真  
 2点以上を張り付けて  
 ください



7. 現地情報

(1)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか？
キャンパス内では大学のWi-Fiを利用することができました。大学の外では、自然の中や地下鉄、街中でも稀に繋がりにくいときがありました。
(2)現地で携帯電話、スマートフォンの利用手続きはどのようにしましたか？
ワイモバイルの海外あんしん定額のプランを利用しました。
(3)現地での支払い方法はどのようにしていましたか？
主にクレジットカード払い
(4)現地で現金での支払いが必要な時はありましたか？
フリーマーケットで学生から品物を購入する際や、友人への立て替えの返金には現金を使用しました。
(5)現地での資金調達はどのように行いましたか？
日本から現金を持って行ったので必要ありませんでした。
(6)日本から現地通貨の現金を持って行かれましたか？ はいの場合、いくら位持っていかれましたか？
はい、£50くらい
(7)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。
箸、ハサミやカッター(現地のものは切れ味が良くない)
<b>8. 留学体験記</b>
(1)留学しようと決めた理由は？
様々なバックグラウンドを持つ人たちと出会い、視野を広げたいと思ったため。 言葉や文化が違う人たちとコミュニケーションを取ることに興味があったため。
(2)留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備はありましたか？
IELTSの英会話スクールに通い、アカデミックな英語を勉強しました。自分の作品や、関心がある社会問題について用語を調べるなどして、説明できるようにしておくと思いいます。
(3)この協定大学を選んだ理由は？
英語のスキルを磨きたかったので、英語圏にあったこと、国際的な学校で他の国からの留学生も多く受け入れていたことが決め手でした。
(4)大学・学生の雰囲気はどんな感じでしたか？
総合大学で様々な学部があり、女子美より多様な学生が通っています。先生方が常に多様性に配慮した教育を心がけている印象でした。 学生の多くはとてもフレンドリーで、助けられることも多かったです。
(5)交友関係についてお聞かせください。
寮のフラットメイトと仲良くなった他、パーティー等で知り合った友人たちと遊びに行ったり、食事をする機会がありました。また、同じコースの友人たちには、授業でわからなかったことをフォローしてもらったり、ノートを見せてもらったり、本当にたくさん助けてもらいました。
(6)困ったこと、大変だったことがあればお聞かせください。

スマートフォンを使いこなせず、違う電車に乗ってしまったり、校舎がわからず混乱したり、移動を負担に感じました。また、体調を崩したときなど、非常に不安でした。

(7)現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。

制作や時間の使い方がほぼ学生に委ねられており、情報不足で途方にくれました。授業は録画されていて後から何度でも見直すことができるので、それを使用しながらレポートをまとめました。スライドなしでの講義やディスカッションが非常に難しく感じました。

(8)海外生活の中で気がついたことなどあればお聞かせください。

イギリスでは何をやるにもアプリのダウンロードが必要で、便利な一方、スマートフォンがなければ何もできない不便さを感じました。また道を歩く時に常に注意が必要のため、日本の安全を改めて実感しました。

(9)海外生活の中で印象深いこと(風景、人、モノなど)を写真で紹介してください。4点以上



